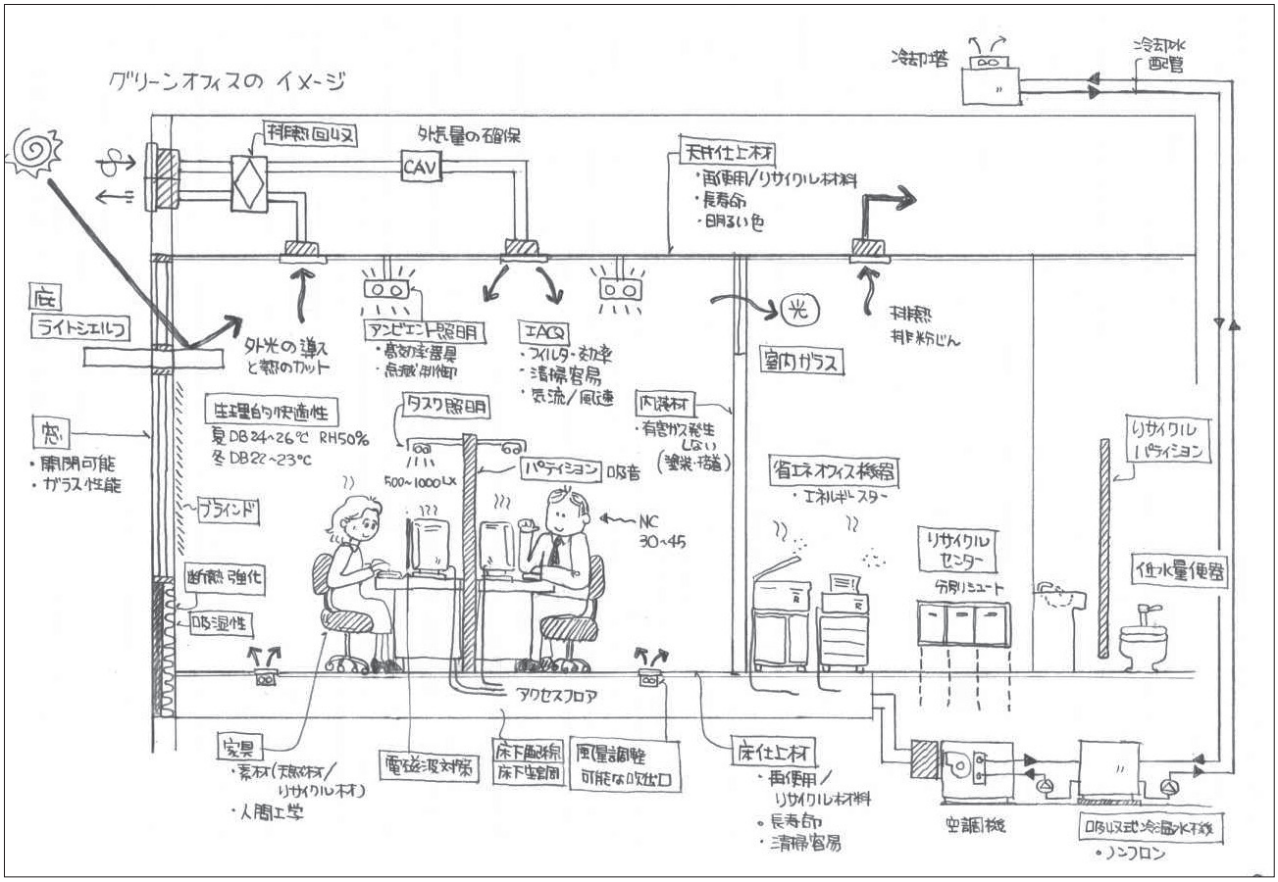
リコーグリーンオフィス

はじめに、

当社PESではOA商品は、会社設立の当初から、事務処理に必須のものとして、いつも片隅に見られていた。特に、リコー商品の印象としては、「イマージオ」と呼ばれる機器がオフィスに導入されてから、その幅広い機能に魅了されて作業をしながら夢が描けるような時を作り出していた。

OA機器として、販売するための切り札は機能の多様性を示すことを主体に行われているが、その後の生産性への影響や効果は, 買い取り側の取り扱いに期待されていて、売る側の責務ではないと言われる。一旦　オフィスに機器が設置されれば、それは無機質なものから、有機的に係わりで、人間と共存し、生命を持つものに変貌する。

そして、機器そのものも、人間と同じように寿命を持つ類となる。

そこで、OA機器と人間が同居する空間はどのようなものか、人間や種々の機器や設備から構成される望ましいオフィスはどのようなものであるべきかを「環境」「社会性」「経済」の視点から、現場での観察、実地での実測、ヒヤリングから考察する。

そしてそれは、年齢差による五感の劣化でOA機器がどのように労働作業性に影響するかを分析評価した。